

## 七十七銀女川支店遺族・田村さん夫妻講演

「最悪考えて  
迅速避難を」

東日本大震災の津波で七十七銀行女川支店(女川町)の行員だった長男健太さん(当時25)を失った大崎市の田村孝行さん(65)、弘美さん(63)夫妻が9日、同市の松山小(児童162人)で講演を行った。健太さんの後輩となる全校児童に命の大切さと災害に備える重要性を伝えた。

## 県内の小学校初大崎・松山小

夫妻にとって県内では初めてとなる小学校での講話。孝行さんは、スライドを使いながら当時の状況を説明した。同町には避難できる高台があったが、行員たちは支店



健太さん(後方右から2人目)が写る卒業写真を前に講話する孝行さんと弘美さん

## 犠牲の長男母校で切々と

長の指示で銀行の屋上へと移動。「逃げる時間や場所があったのに、従った12人は犠牲となった。最悪の場合を考えて逃げる事が必要」と呼びかけた。

震災翌日に同町を訪れた弘美さんは、町内が戦場のような風景だったと振り返った。「家族がそろって何げない毎日を過ごせることが幸せだと、息子が教えてくれた。松山地区でも水害に備え避難路を確認してほしい」と語った。

健太さんは同校の卒業生。会場では、親子の思い出や子どもを失った親の悲しみ、防災伝承の意義などを記した健太さんの絵本「ふしぎな光のしずくけんたとの約束」も朗読された。児童たちは健太さんの冥福を祈り黙とうをささげた。

6年相沢蒼之介さん(12)は「苦しかったり、悲しかったりと田村さんが健太さんを思う気持ちが伝わった。中学校に行っても、命や時間を大切にしたい」と話した。

これまで防災の観点から企業や大学で講話することが多かった田村さん夫妻。今回の講話は、弘美さんが職員だった市社協松山支所での講演がきっかけになり、健太さんの母校での開催が決まった。(川村公俊)



手を合わせ黙とうする児童